

第3回藤山中学校区地域協議会会議録

1. 開催の日時及び場所

令和7年10月29日（水） 18：30～20：30

藤山ふれあいセンター 大ホール

2. 傍聴者

なし

3. 出席者

出席委員 13名（欠席委員2名）

事務局職員 12名

4. 次 第

（1） 開会

（2） 議事

1 先進校の視察報告と事例紹介

2 施設整備について

（3） その他

【開会】

（会 長）： はじめに前回の協議会の振り返りを行います。

（「藤山中学校区地域協議会だより」に基づき説明）

【先進校の視察報告と事例紹介について】

（会 長）： それでは、先進校の視察報告と事例紹介について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）： 山陽小野田市立埴生小中一貫校の視察の状況について報告させていただきます。

（「先進校視察報告と事例紹介 山陽小野田市立埴生小中一貫校」について説明）

（会 長）： 視察された委員の方は、感想をお願いします。

（委 員）： 小学生の子どもたちがのびのびと学校で過ごしているように見えました。埴生小中一貫校と同様に、スクールバスがあれば通学に係る時間や距離の面が解決されると思います。

（委 員）： 出入り口が一つでしたが、私たちの新たな一貫校に照らすと人数や規模が違うので混雑するのではないかと、児童生徒数に対し図書館が狭いのではないかと気になりました。課題にもありますが、小学校高学年の児童が、運動会などの行事で高学年としての役割を発揮する場面が少なくなることも気になります。また、視察に行って良かった点は、校長先生と話す機会があり、今の

中学生のイメージが、私が中学生の頃の少し怖いイメージと違うことです。私と同様に、中学生と小学生が一緒になることを不安に思う保護者もいると思いますので、中学校見学会などがあれば、保護者の不安なイメージも少し和らぐのではないかと思います。

(委員) : 3つお話をさせていただきます。1つ目は、子どもたちの心のより良い醸成に繋がっていると感じました。小学生が中学生に寄っていく姿や中学生が優しい表情で小学生に接する姿はすごく良いことだと思います。2つ目は、9年間の学びの連続性に向けた実効性のあるカリキュラムに基づいた教育活動が行えていると感じました。3つ目は、教職員間の連携が取れていることです。職員室が一つですので、小学生と中学生で先生の間に垣根がないと見ていて思いました。教員の数が多いことは、マンパワーにおいても強みだと思います。

(委員) : 大きい子が小さい子をからかう心配もありましたが、今お話しがあったように今の子どもたちは私たちの子どもの頃とは違うと見ていて思いました。

(委員) : 視察させていただき現地を見ることの素晴らしさを改めて感じました。小中学校の校舎がどのような関係になっているのか、職員室はどんな雰囲気なのか知ることができました。新しい教育のメリットやデメリットが色々あると思いますが、まずはどんな教育を行うか決めてから、そのためにこのような施設が必要といった順序で話をさせていただきたいです。

(会長) : ありがとうございます。

次に、事例紹介について事務局から説明をお願いします。

(事務局) : (「先進校の事例紹介 岩国市立東小学校・中学校、神奈川県川崎市立はるひ野小学校・中学校」について説明)

(会長) : 質問や意見がある方はいらっしゃいますか。

(委員) : 小学生と中学生の交流があることは、良いことだと思います。また、大人の目が多いことは、安心できます。

(委員) : 6年生の最高学年としての役割を発揮する場面がないと話もありましたが、6年生の役割への期待は、大人の考え方なのかなと思います。学年にこだわると何もできない気がしますので、各学年が学校の中で役割分担をし、活動を行うことが子どもたちの成長に繋がると思います。

【施設整備について】

(事務局) : (施設の整備について、資料2に基づき説明)

(会長) : 資料2について、質問や意見がある方はいらっしゃいますか。

(委員) : 藤山中学校の北門付近は、隣接する道路よりも低いため、大雨の際に、水の侵入がありますが、その点の改修は建替えの際に検討されますか。

(事務局) : これから建物の設計をする上で、検討させていただきます。

(委員) : 確認ですが、小学校と中学校の建物が離れていて小中一貫校と呼んでいる学校はありますか。確か前回の協議会で、ないと聞いたと記憶していますので中学校の敷地に建てるしかないのかと思いました。別々にして小中一貫校

として建てるメリットは何ですか。

(事務局) : 宇部市においては、令和2年度から小中一貫教育を行っていますが、全て分離型となります。現在も、藤山中学校、藤山小学校、鶯ノ島小学校は施設分離型の小中一貫校となります。施設が離れているため、本来の中学生と小学生の交流や教職員間の連携が難しいと思っています。そのため、小中一貫教育をさらに推進していくため、適正配置を行うにあたっては、審議会からの答申を踏まえて、今後は施設一体型の小中一貫校となるよう計画を作成しています。ですが、前回の協議会で施設一体型になり、中学生と小学生が一緒に敷地で学校生活を行うようになるには不安もあるとのご意見をいただき、今回改めて施設一体型と施設分離型の小中一貫校の施設面でのメリット、デメリットを紹介させていただき、また、施設一体型小中一貫校がイメージできるよう、先進校の視察報告と事例紹介をさせていただきました。

(委員) : 施設分離型になった場合、藤山小学校では建て替えのため、運動場が5年間使えないと話を聞いたのですが、体育の授業や外で遊ぶことができなくなるのですか。

(事務局) : 外で遊ぶスペースは広くはないですがあります。ただし、運動会などの行事は、藤山小学校の運動場で行うことは難しいと思います。

(委員) : 子どもたちが長期間、外の行事が行えない環境を考えると、施設一体型の方が良いと思います。

(委員) : 小さい頃から多くの人や異なる年齢の人と交流できる点では、施設一体型の方が良いと思います。しかし、目が行き届かない部分があると思いますので、これからソフト面の部分が充実できるよう協議していくべきと思います。

(委員) : 敷地が先にあるのではなく、このような教育を行いたいからこの敷地が必要といった議論を進めるべきだと思います。事務局としての施設整備に向け、これからどのように進めていきたいか教えてください。

(会長) : 教育長は、これから新しい教育を行う上でどのように進めていくことが必要と考えていますか。

(教育長) : これまで小学校と中学校で大きな壁がありました。壁をなくし、9年間の子どもたちの成長を、全教職員で見て、地域も一緒に支える、そのための小中一貫校と考えます。そのためには、これまでの施設分離型ではなく、施設一体型の方が効果は上がると考えます。子どもたちが安心、安全に過ごせることを第一に、子どもたちや保護者、地域の方がこの学校に行きたい、行けて良かったと思ってもらえるような学校を創っていきたくと考えています。ソフト面については、例えばですが、中学校3年生を受け持った担任が次の年度は小学校1年生の担任になるといったように全教員で育てていくことも考えています。また、学年の問題もあります。学年の校舎を一緒にする、小学6年生と1年生を兄弟学年にして、リーダシップを養っていくといったこともできると考えており、これから委員の皆様や教育委員会が知恵を絞っていければと考えています。宇部市はこれから人口が増々減少していきます。

宇部市が今後建て替える小中学校は全て施設一体型の小中一貫校になっていくと思っています。そのスタートとなるのが、藤山小中一貫校です。宇部市民全員がこんな新しい教育ができるのかと思っていただけるように、まずは施設面で、そしてソフト面は大きな小中一貫校を目的にしながら、細かいところは、皆様の知恵をいただきながら考えていきたいと思っています。

(会 長) : ありがとうございます。

意見も出尽くしたと思いますので、本日、施設整備場所について可能であれば決めたいと思います。

教育委員会から提案がありました「藤山中学校を活用した施設一体型小中一貫校に整備する」ことで賛成される方は挙手をお願いします。

(一同、賛成)

ありがとうございます。

全員賛成でしたので、施設整備については、藤山中学校を活用した施設一体型小中一貫校に整備することで本協議会の結論とさせていただきます。

こちらは市へのお願いになりますが、藤山小学校や鵜ノ島小学校の敷地を中学校の部活動やスポーツ少年団の活動、地域の活動で利用できる検討をお願いします。また、先ほど教育長からお話があったようにこの学校に行きたいと言われるような夢のある施設整備をお願いします。

【その他】

(会 長) : では、次第(3)その他に移りたいと思います。

これからの協議の内容について説明をお願いします。

(事務局) : 次回以降の協議会では、鵜ノ島地域の校区境の見直しや通学の安全の確保、学童はどうするかなどが今後検討していく課題になります。

(会 長) : それでは本日の協議会を終了します。